

糸魚川市能生川左岸における低標高地ブナ林の分布

Distribution of the beech forest at lower elevations on the left bank of the Nou River,
Itoigawa City, Niigata Prefecture, central Japan

笠原 勇一^a

Yuichi Kasahara^a

^a きらら自然の会

Kirara Nature Friends, Fossa Magna Museum, Ichinomiya
1313, Itoigawa, Niigata 941-0056, Japan

はじめに

糸魚川市能生地域の能生川流域丘陵地帯には、大小のブナ林が点在している。日本のブナ林は、本州中部地域においては標高 500 m～1500 m に成立するとされている。しかし、能生地域には、標高 200 m 以下にもブナ林が多く成立しており、一部には海岸近傍にもブナの個体が生育している（野紫木, 2013）。こうした低地ブナ林については体系的な調査研究が行われておらず、その成立の要因や生態的特性については未解明である。また、本地域ではブナの芽吹きは他の広葉樹に先駆けて新緑となるのでその存在を容易に確認することができる。そこで、ブナが多数生育する能生川の低地周辺においてその分布状況を明らかにするため調査をおこなった。今回は左岸を主におこなった現地調査の結果を報告する。

調査地（糸魚川市能生地区：溝尾地区より下流域の能生川左岸および島道川流域）の概要

能生川両岸の丘陵地帯は、戦前はブナを中心とした広葉樹林が広がっていたが、戦後は植林政策や燃料が薪炭から灯油に代わるなかで、ブナやナラなどの広葉樹が伐採され、スギが多く植林された。そのため、ブナを主体とする広葉樹林と杉林とは丘陵地帯をパッチワークのように染め分けて混在している。

調査日時

能生地区ではブナの芽吹き時期は例年 4 月中旬である。今年はブナの芽吹きが顕著になった平成 26 年 4 月 19 日に調査地を巡回し、その分布を調べた。8～9 月に各分布地を再訪し、ブナであることを確認し、標高を調べた。

調査方法

能生川左岸及び島道川流域の丘陵地帯を車で巡回し、芽吹いたブナを双眼鏡で確認し地図上に記録し、写真撮影もおこなった。さらに、夏季には現地に出向き、ブナの分布状況と標高を確認した。標高は、国土地理院が発行している地図と GPS を元にし、標高を調べるスマートフォンアプリを利用して測定した。確認したデータを地図上に記録し、ブナ分布マップを作成した。

結果と考察

1 本地域におけるブナ林の特徴

能生川左岸上流の溝尾地区から下流の桂地区（日本海から直線で 1500 m 付近）までのブナの分布状況を俯瞰してみると、かつては能生川流域の丘陵地帯はブナ林に広く覆われていたと考えられる。ブナは、急峻な斜面にはほとんど見かけることはないが、平坦面や緩斜面には比較的多くのブナを見ることができる。能生川左岸では中流のグリーンメツ



図 1. 龍光寺近くのブナ

セ周辺にまとまったブナ林が見られるが、下流域にも小規模なブナ林が点々と分布している（図 1）。それらは、スギの植林地によりブナ林が分断されていることが写真からもよくわかる（図 1）。

2 ブナ林の標高

各地区のブナ林の標高を表 1 および図 3 にまとめた。溝尾地区から槇、平地区の丘陵地帯、特に大平地区（グリーンメッセ能生ゴルフ場）を中心とした比較的平坦な地域の標高 250 m 付近にはブナが多く分布しており、かつてはより広範囲に展開していたと考えられる。また、そこから徐々に平・中江地区の住宅地後方の標高 80 m の低標高地までブナが連なるように分布していることがわかる。この平・中江地区の島道川の水位面は標高約 70 m で、川に近い所にまでブナが分布している。鶉石（標高 55 m）や桂（標高 78 m）地域のブナは、谷筋や稜線など

表 1. 各地区のブナ林の標高（一番低い位置）

地 域 名	標 高
溝尾地区	210m
大平地区 （グリーンメッセ能生）	250m
平 井ノ口地区	110m
平 中江地区	80m
平 森本地区	60m
上小見 龍光寺地区	100m
鶉石地区	55m
桂地区	78m



図 2. 桂地区のブナ林

耕作地として比較的利用しにくいところを中心に広がっており、そのために残されたと考えられる（図 2）。

おわりに

今回、能生川左岸を中心に調査を行い、分布図を作成したが、まだ未調査のところがある。また今後は右岸についても細かい調査を行いながら、能生川流域、さらに隣の百川・大洞・筒石地区のブナの広がりについて調査をしていく必要がある。特に百川地区では、海岸線から約 100 m、標高 20 m の所に 2 本のブナが自生している（野紫木, 2013）。海岸線に近いところでは、ブナの他にアカガシ、シロダモなど常緑照葉樹との混合林があり、低標高のブナの分布を調べるだけでなく、本地域にはなぜこのような他地域には見られない分布に至っているのかその要因と生態とを調査していく必要がある。

文献

野紫木 洋, 2013, 糸魚川世界ジオパーク 植物ガイドブック。糸魚川市, 160p.

